



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA
(公益財団法人静岡県文化財団内)

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目 3 番 1 号 グランシップ1F

☎ 054-204-0059 📠 054-288-8180 🌐 Website

✉ info@artscouncil-shizuoka.jp

🌐 https://artscouncil-shizuoka.jp



f Facebook

📷 Instagram

🐦 Twitter

@artshizuoka

静岡県では、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの中で、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化・芸術を結び付け、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援してきました。アーツカウンシルしずおかは、この支援の仕組みをレガシーとして継承・発展させるため、2021 年 1 月に公益財団法人静岡県文化財団内に設置された組織です。

視点をかえる 発想をひらく

アーツカウンシルしずおかは、「視点をかえる 発想をひらく」をキャッチフレーズに、住民主体のアートプロジェクトの支援を中心として、物事の見方に変化を促し、発想を広げるお手伝いをする組織です。

“すべての県民がつくり手（表現者）”となることを目指して、誰もが持っている創造力が活かされる道をひらき、まちづくりや観光、福祉、教育など社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる、創造的な地域づくりに貢献します。

「すべての県民がつくり手」 創造性に輝く地域社会の形成

加藤 種男 Kato Taneo

アーツカウンシルしずおか アーツカウンシル長（公益財団法人静岡県文化財団副理事長）



芸術文化は本来、お祭りに代表されるように、私たちの生活の中に根付いたものでした。自分たちの地域で、みんなでつくってみんなで楽しむお祭りは、すべての人がつくり手となります。そこでは、交流と包摂こそが重要であり、さらには他者との違いや混交を創造の源泉ととらえて楽しむものでした。

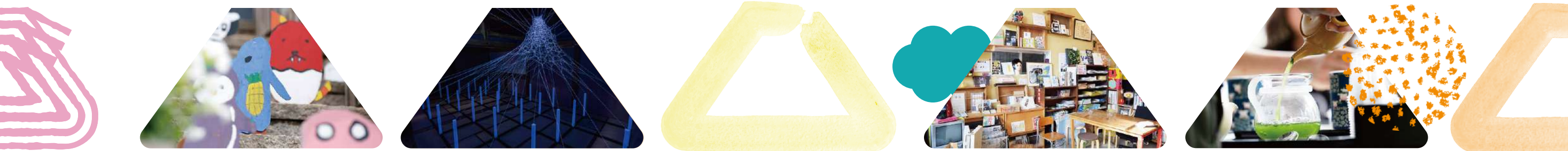
けれども、近代から現代にかけての芸術文化のあり様は、つくり手であるアーティストと受け手である鑑賞者を分離し、芸術文化が一部の人の特別なものであるという誤解を生みました。

近年、アートプロジェクトを通じ、芸術文化は社会とともにあることが再確認されるようになり、つくり手であるアーティストと、これまで鑑賞者であり受け手とされてきた人々との関係は、さまざまな形に広がってきました。

例えば地域の芸術祭では、アーティストと住民との共同作業によってアートプロジェクトとして成り立っています。それは地域社会の創造性を育み、生き方や社会の在り方について、新しい見方を示してくれます。それは、地域社会が持続していく力となるでしょう。また、すべての人が自己表現を社会化していくことで、少子高齢社会の課題解決に取り組むことができます。

さらに言えば、起業家精神を持った人々が、まだ誰の目にも見えていない社会の変化を顕在化させ、新しい価値を創造するアーティストの存在に注目しているのも、時代のニーズを先取りし常に進化し続けなければならない企業にとって、アーティストこそ最もふさわしいパートナーだと考えているからでしょう。

「アーツカウンシルしずおか」は、地域社会の創造的再生をはじめ、少子高齢社会における創造的な課題解決、移住者と地域を結ぶ取組、企業における創造活動やブランド化のサポートなど、まちづくりや観光、福祉、教育など社会の様々な分野の課題と芸術文化を結びつける活動を通じて、県民の皆さん全員をつくり手（表現者）とし、静岡県を全国一創造性に輝く県にしていくことを応援してまいります。

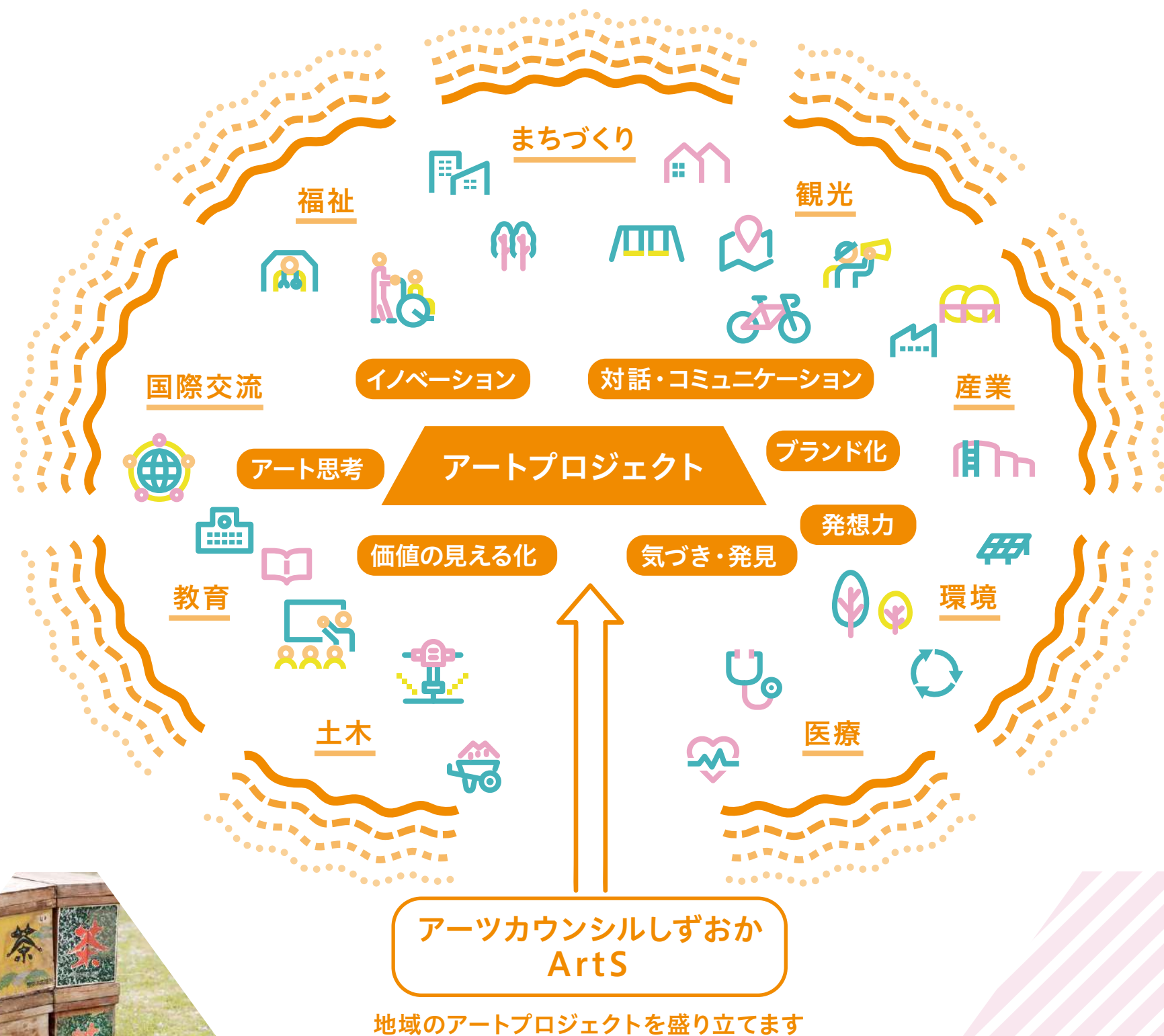
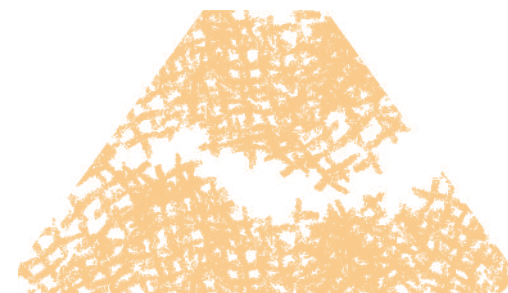


アートプロジェクトとは？

みんなでわいわいガヤガヤ、
あーでもないこーでもないと
進める未来づくりです。

多様な人々との協働のプロセスを重視する、地域や社会にひらかれたプロジェクトであり、創造的な地域づくりにつながる「原石」を生み、社会に還元する研究開発であるととらえています。

アーツカウンシルしずおかは、アーティストやプロジェクトの主催者だけが輝くのではなく、住民や鑑賞者など多様な人々が「つくり手」としても参加できるような仕組みや工夫を試みる、地域や社会の課題に対応したプロジェクトを応援しています。

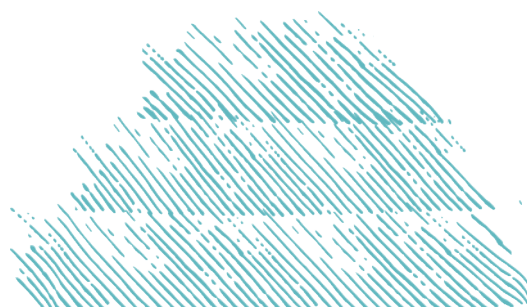


なぜ、アートなのでしょう？

試行錯誤が不可欠であり、「人と違っているからこそ素晴らしい」というアートの世界は、固定化した価値観を転換する可能性を秘めています。

アーツカウンシルしずおかは、誰もが持つ創造性が発揮されることが、コミュニティの維持や活性化につながると考え、アートを活用し地域や社会の課題に対応する住民主体のプロジェクトを支援しています。

将来の予測が困難な時代において、ビジネスの分野でも、異なる領域をつなぎ、思いもよらない発想を生み出すアートの創造性は、消費者との関係づくりや商品開発、プロジェクト運営、スタッフマネジメントなどにも寄与できると考えています。



私たち“専門家”がお手伝いします！

助成制度を活用してアートプロジェクトを実施する団体に対し、文化・芸術と社会を結ぶアートマネジメントの専門家であるプログラム・ディレクター、コーディネーターが、助言や事業内容の整理などの伴走支援を行っています。

また、文化に限らず、ビジネスや行政などの分野においても、発想力を引き出し、住民との関係づくりの方策を提案するなど、課題への創造的な対応やブランド化などのご相談も随時受けつけています。



櫛野 展正
Kushino Nobumasa

2000年より知的障害者福祉施設で働き、2012年からは広島県福山市にある「鞆の津ミュージアム」でキュレーターを担当。2016年4月には、アウトサイダー・アート専門スペース「クシノテラス」オープンのため独立。表現せずにはいられない人たちに焦点を当て、全国各地で取材を続けながら執筆や展覧会の企画などを行う。著書に『アウトサイドで生きている』（タパブックス）など。広島県福山市出身。



北本 麻理
Kitamoto Mari

アートキャンプ白洲でダンスに出会ったことを機に、芸術と社会の橋渡しについての探求を始める。京都造形芸術大学舞台芸術研究センターでの公演制作を経て、舞鶴市文化事業団アートコーディネーターとしてワークショップや舞台作品を企画・運営。JCDNで東日本大震災被災地の復興支援事業『三陸国際芸術祭』『習いに行け！東北へ！』のプログラム・ディレクターを務める。ほか、国際障害者交流センター勤務。京都市出身。



立石 沙織
Tateishi Saori

静岡文化芸術大学にてアートマネジメントを専攻。ギャラリー勤務などを経て、「黄金町バザール 2011」（神奈川県）にコーディネーターとして関わったあと、2012～2014年まで「日和アートセンター」（宮城県）でアーティスト・イン・レジデンスの運営や展覧会の企画を担当。2014年よりNPO法人黄金町エリアマネジメントセンター（神奈川県横浜）に所属し、アートプロジェクトの企画や広報に携わる。磐田市出身。



鈴木 一郎太
Suzuki Ichirota

20代をアーティストとしてロンドンで過ごしたのち、2007年からNPO法人クリエイティブサポートレッツで障害と社会をつなぐ事業に携わる。2013年独立。事業主体者の思いを整理し、展望を見出す企画づくりを主業務としながら、ウェブマガジン・ゲストハウス・コミュニティスペースの立ち上げ、文化事業企画、拠点運営、展示ディレクション、研究事業などに関わる。浜松市出身。



若菜 ひとみ
Wakana Hitomi

自治体職員として若手芸術家の支援やミュージアムの企画運営など文化振興業務に従事する一方、音楽に合わせて体を動かす楽しさを多くの人と共有したいとフラッシュ・モブ（路上等で突如行われるパフォーマンス）を主宰。アジア最高位のロードレースの催しに起用されるなど、多くの市民を巻き込みメディアにも取り上げられる。コミュニティFMの映画番組担当のほか、2011年より宇都宮市内の劇団に所属し制作を担う。宇都宮市出身。

そのほかにも相談窓口があります！

アーツカウンシルしずおかでは、法律や経理・運営の面から文化・芸術活動をサポートする相談窓口も設けています。

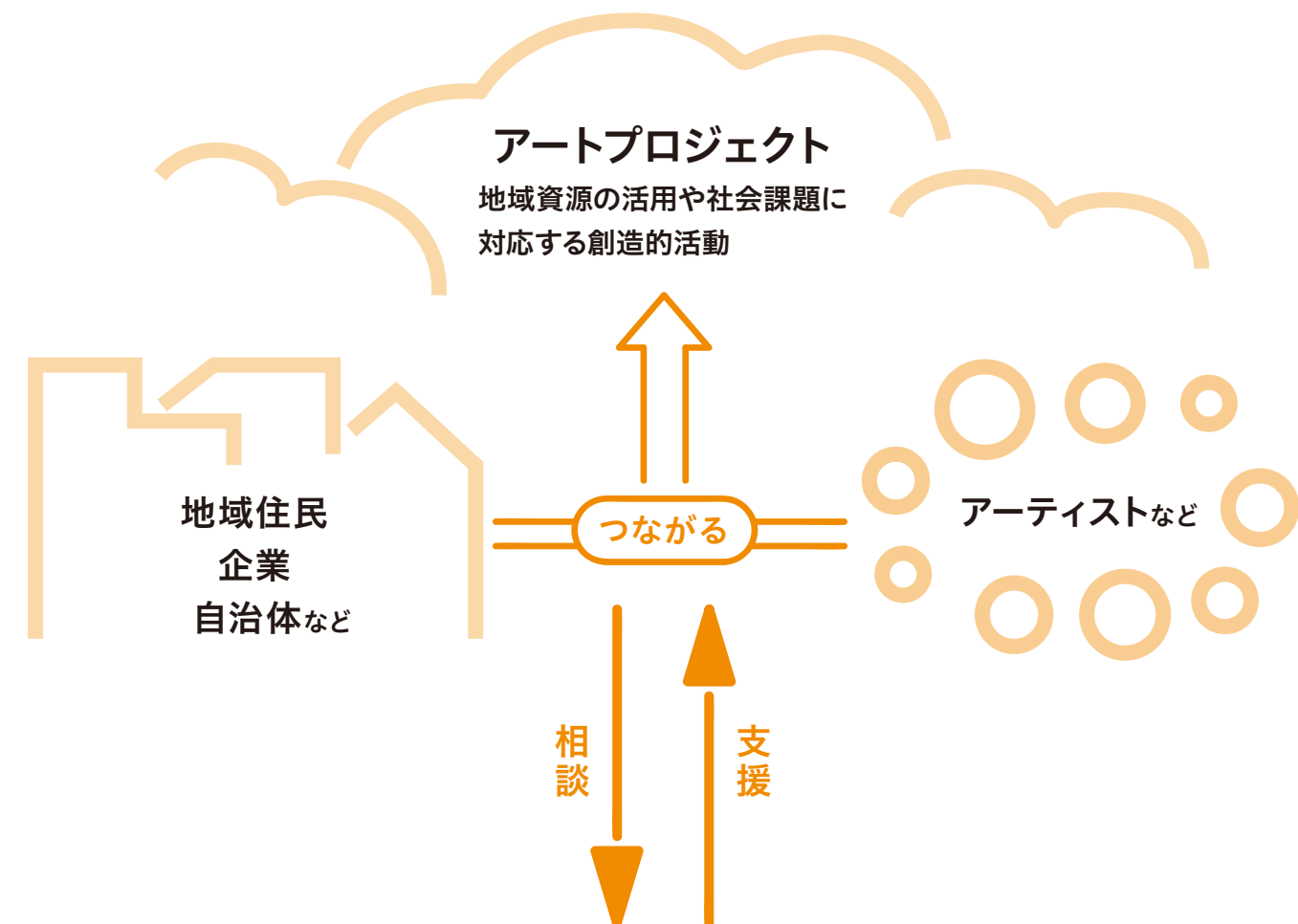
弁護士・税理士・中小企業診断士にご相談いただける窓口とともに、文化・芸術分野をはじめ、幅広い見識をもつ特別相談員による相談会も月1回開催しています。これらのご利用は予約制となっておりますので、ウェブサイトのお問い合わせフォームからお申込みいただくか、電話、メールにてお問い合わせください。

相談窓口の詳細はこちら



054-204-0059
info@artscouncil-shizuoka.jp

アーツカウンシルしずおかの役割



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

主な事業内容

住民主体の アートプロジェクト支援

- 助成、伴走支援 ※1
- 住民プロデューサーの発掘
- 先導的な事業の試行

コーディネート

- 相談窓口
- セミナー、講演会などの開催 ※2
- 企業・団体・大学・自治体とのネットワークづくり
- アーティストとのマッチング

調査研究・政策提言

- 地域資源・文化活動の調査研究
- 自治体、文化団体などへの助言・提言

※1 助成金による支援と共に、プログラム・ディレクター、コーディネーターによる助言や事業内容の整理などの伴走支援を行います。

※2 創造的活動のヒントになる示唆に富んだトークや事例の紹介をします。